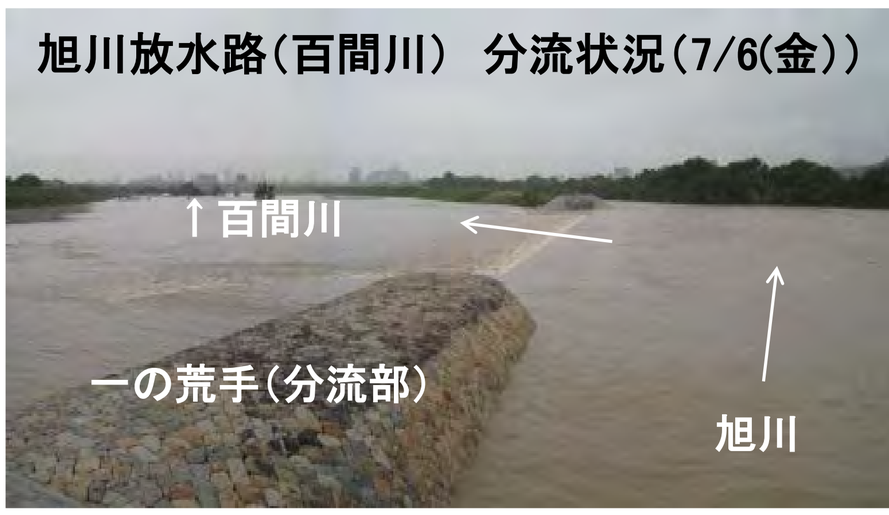
平成30年7月豪雨では
社会資本ストックが整備
効果を発揮。

役割。

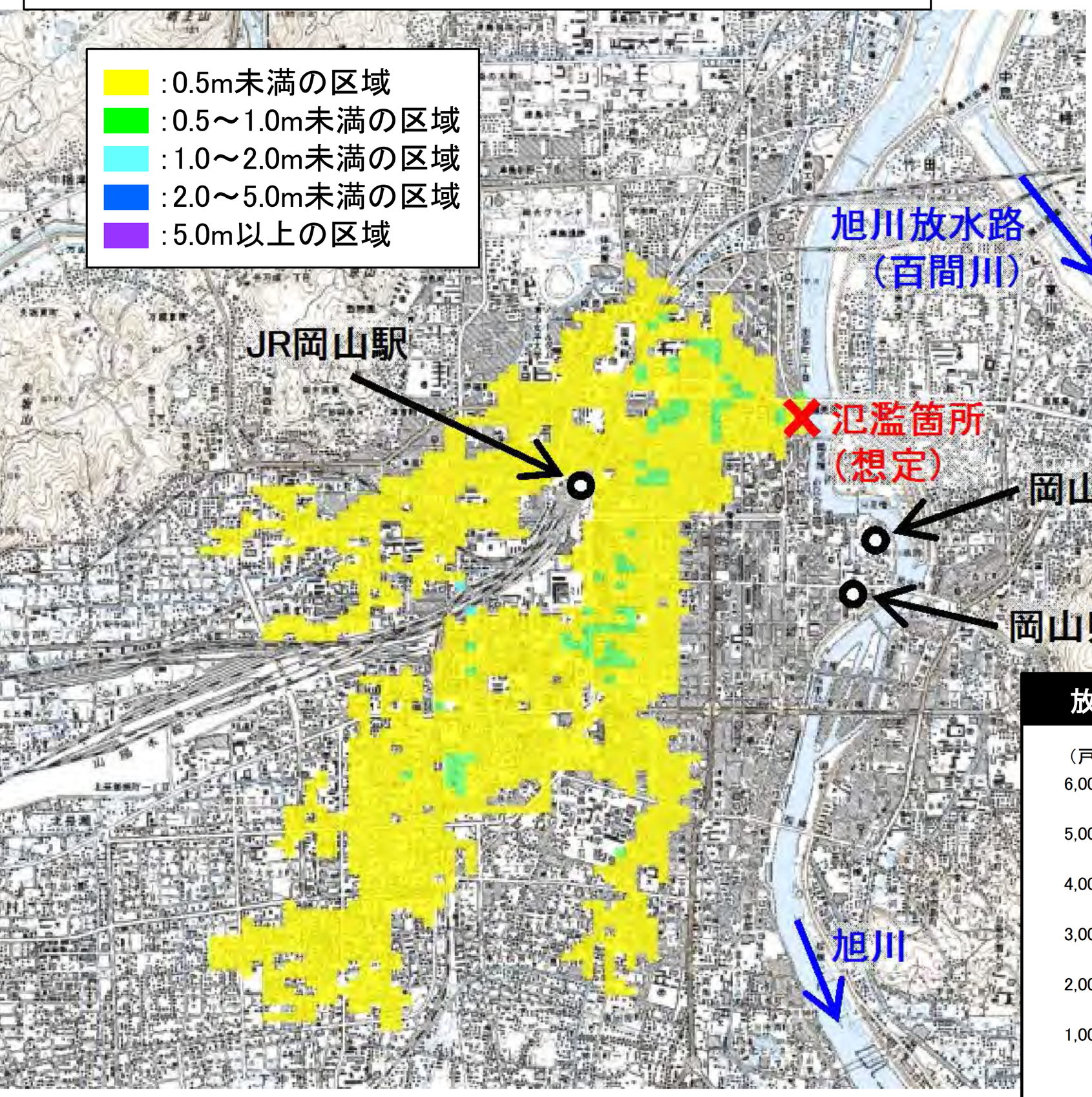
旭川放水路が浸水被害を防止

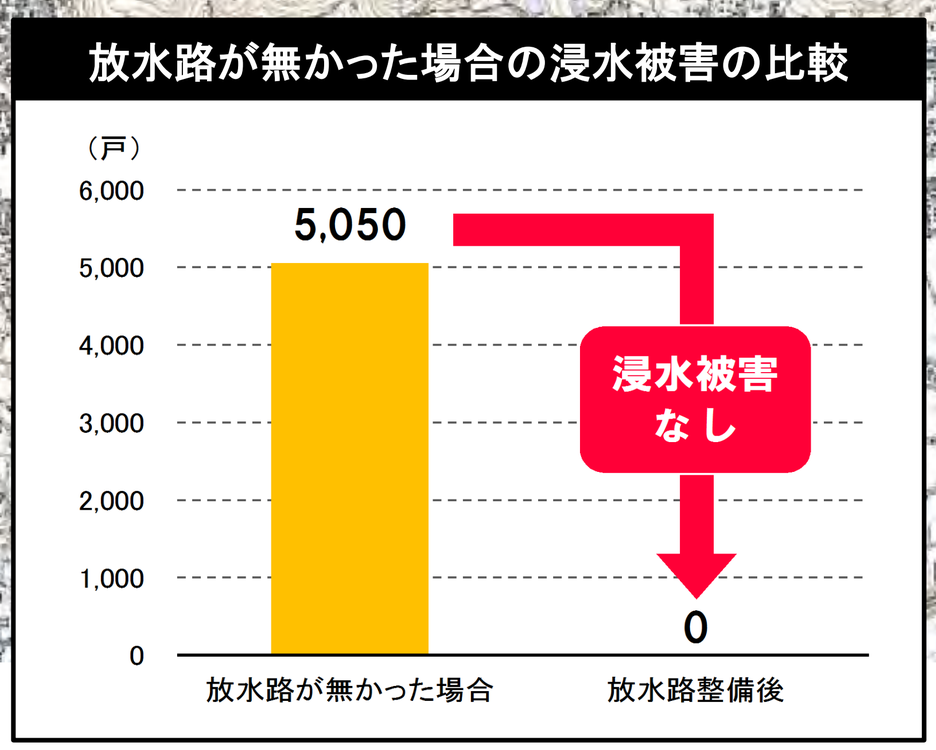
岡山県の旭川放水路分流部の上流側に位置する下牧水位観測所では**氾濫危険水位**を超過。

7月6日には、分流部の「一の荒手」を越流し、洪水を**放水路へ分派**。最大で分流前4,500m3/sのうち、1,300m3/sを放水路へ分流したことによって、旭川の水位を1.5m低下させた。
今回の洪水では、旭川放水路が無かった場合、岡山市街地の約450ha及び約5,050戸の家屋の浸水被害が発生するおそれがあったが、洪水を分流したことによって、旭川の水位を約1.5m低下させ、洪水を安全に流下させた。



【今回の洪水による旭川放水路が無かった場合の浸水想定区域】



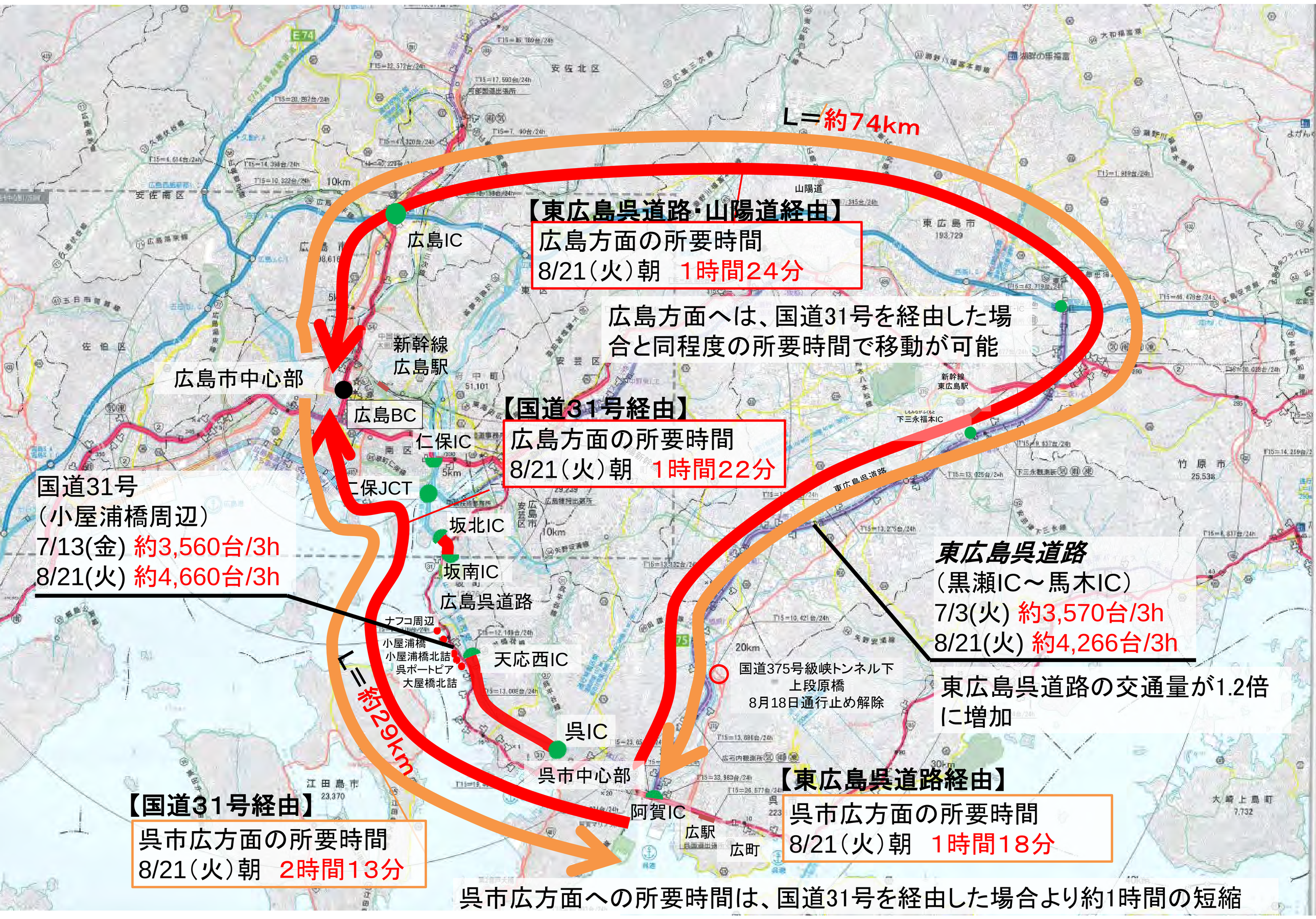


砂防堰堤が土石流・流木を捕捉

【広島県安芸郡熊野町】
広島県安芸郡熊野町の滝ヶ谷川における土石流・流木を補捉
7月15日　砂防ボランティア 広島県協会 提供

広島－呉間の広域迂回路
東広島呉道路

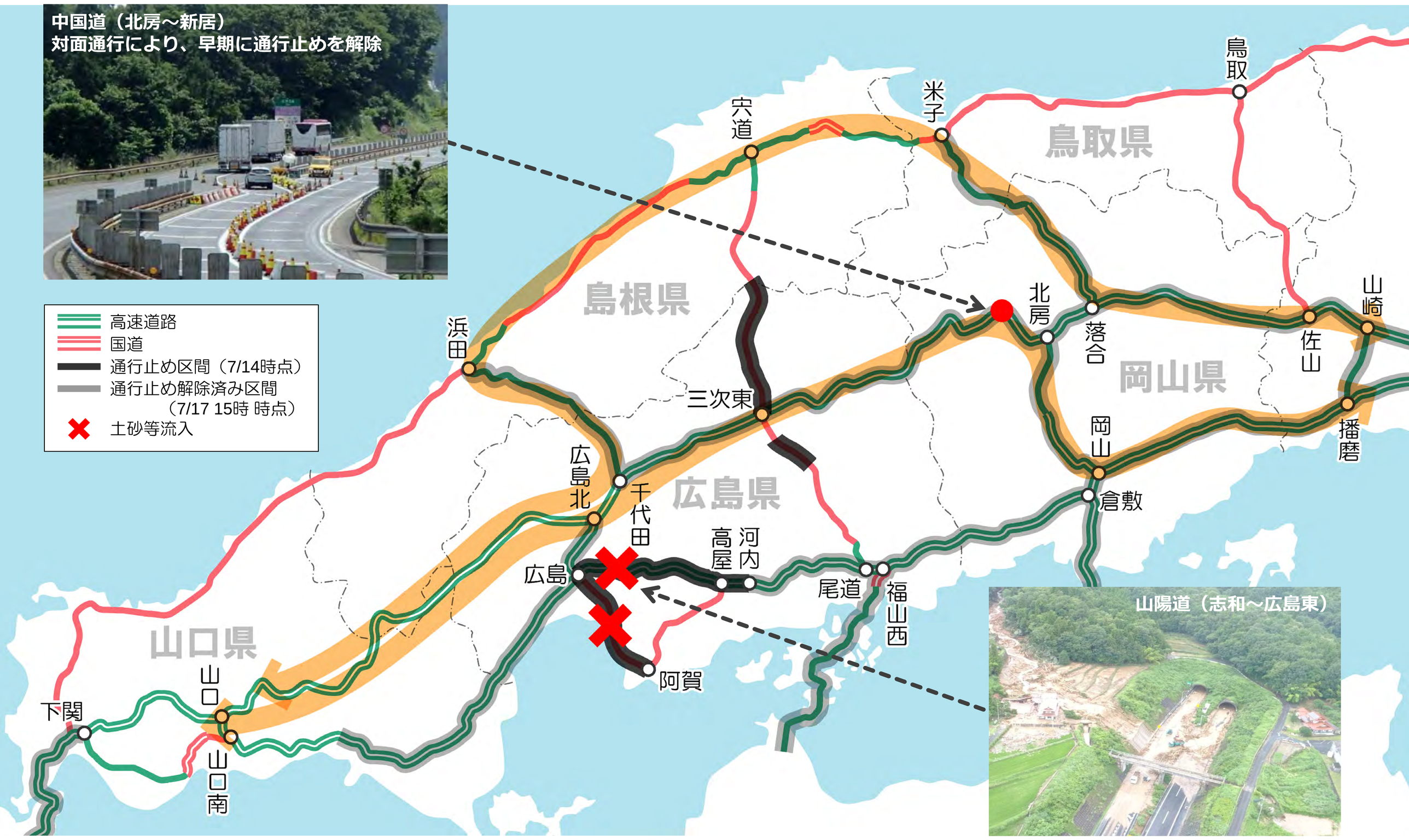
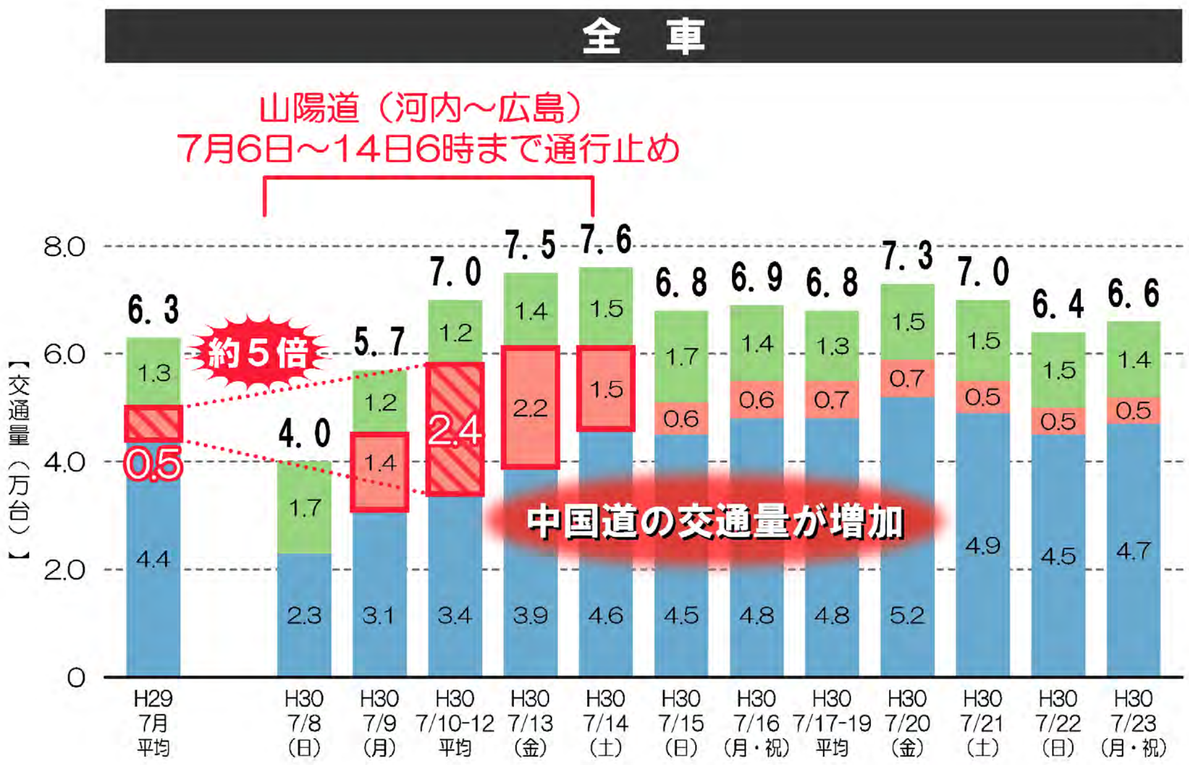
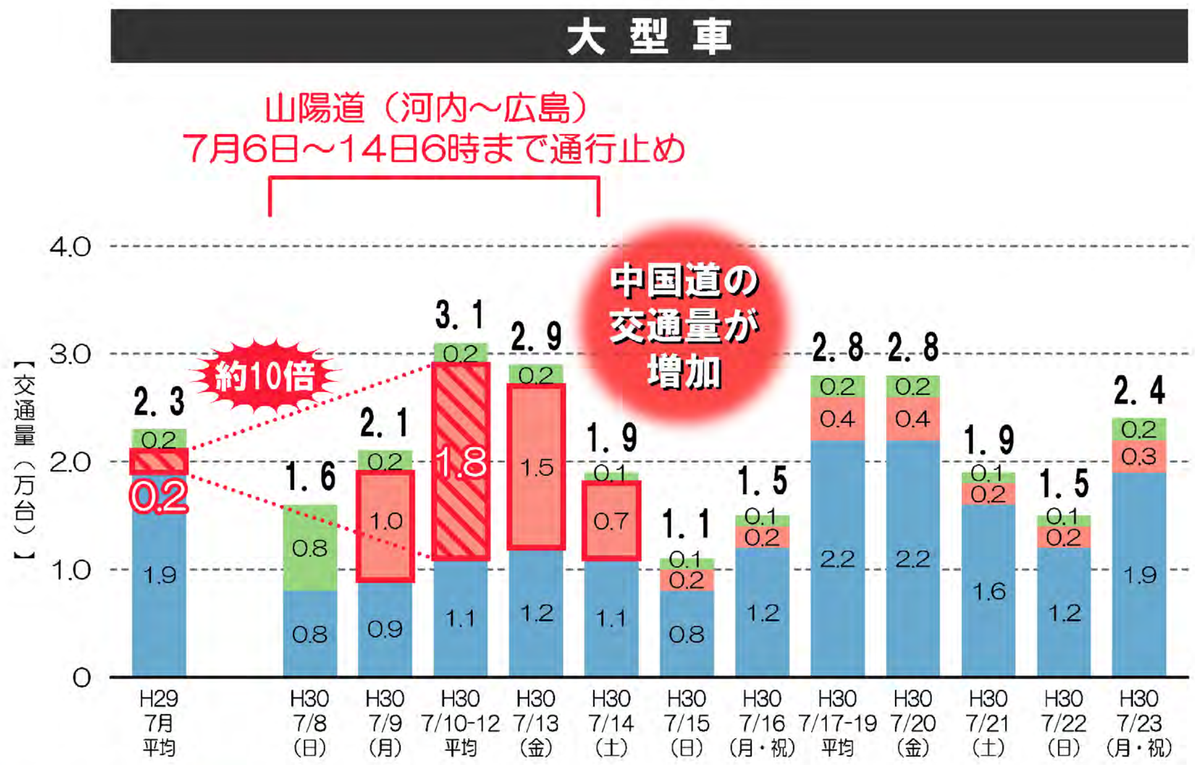
広島-呉間の広域迂回路として東広島呉道路・山陽道を活用。
広島呉道路通行止め期間中は東広島呉道路の交通量が1.2倍に増加。



発着：広島（広島BC）、呉市広付近（阿賀IC）
7月18日、8月21日に実施したプローブカー調査による所要時間
国道31号経由については、一般道、都市高速（宇品～仁保）、広島呉道路（仁保～坂北）、国道31号を利用
東広島呉道路経由については一般道、山陽道、東広島呉道路を利用
3hは6:00～9:00の3時間

高速道路の
ダブルネットワーク

東西の大動脈である山陽道が通行止めとなったが、被災後は補完する2ルート（中国道及び山陰道）により広域交通の機能を確保（中国道は被災箇所を一部対面通行にすることにより早期に通行止めを解除）



【山陽道・中国道・山陰道の交通量推移】